

## 大石内蔵助を偲ぶ都内遊歩

平成22年(2010)12月12日(日)戸山高校の同級生12名が栗林君の計画で昨年足を延ばせなかった大石内蔵助他47義士のお墓がある泉岳寺に行くことになった。

集合場所は、都営地下鉄「泉岳寺」駅でなく3駅手前の「新橋」の鉄道発祥の地を記念する機関車のある広場に10:00集合である。師走気分で機関車にもサンタクロースが搭乗している。師走にしては暖かい小春日和であり、気持ちが良い。



機関車のある新橋広場

歩くことも大きな目的なので新橋から先ず虎ノ門へ、文科省と霞ヶ関ビルを横目に見ながら大石内蔵助とは全く無関係であるが、虎ノ門金刀比羅宮に今日のウォーキングの安全を祈願する。



虎ノ門金刀比羅宮

虎ノ門金刀比羅宮は丸亀藩主京極高和が延宝7年(1679)領内の金比羅宮の分霊を藩邸のあった虎ノ門に祀ったものである。



銅製の四神鳥居

ここで珍しいのは文政4年(1821)に奉納され、区の文化財に指定されている四神が鳥居の柱に付いている銅製の鳥居である。

虎ノ門病院の横をぬけたが、数日前までは海老蔵が入院していたので報道陣が多かったようだが今は静けさを保っている。

病院近傍の日本消防会館に到着。この場所は大目付仙石伯耆守の屋敷のあった所で、大石内蔵助が2名の義士を自首のために派遣した場所である。



井戸・47義士・2人の足洗いモニュメント

今は2義士が足を洗ったという場所に井戸と47義士を意味する小さな現代的なモニュメントがあるだけである。

ここまで来ると江戸時代は海や富士山が見え風光明媚で、東京区内の自然山で最も高いといわれていた標高25.7m愛宕山に寄りたくなる。

愛宕山頂には徳川家康によって江戸防火のために祀られた愛宕神社がある。

また、徳川家光が増上寺参詣の際に愛宕山頂にある梅を所望し、間垣兵九郎が男坂の階段を馬で上って取ってきたということで有名であり、この男坂の急階段は「出

世階段」と云われる。我々高齢者は手摺を便りにゆっくり階段を降りた。

また、NHKの前身東京放送局(JOAK)が放送局を置き、日本で最初にラジオの放送をしたのもこの愛宕山である。



愛宕神社前



急な男坂



25. 7mの三角点



結婚式で賑わう愛宕神社



将軍家光所望の梅

家康が麴町から移したという曹洞宗の名刹青松寺の前を通り、上野寛永寺と並ぶ徳川の菩提寺「増上寺」に行く

増上寺は浄土宗の7大本山の一つであり、慶長3年(1598)に現在地に移され、6人の将軍の墓所でもあり、皇女和宮の墓所でもある。しかし度重なる火災によって焼失し、大殿は昭和49年に再建されている。

また、元和8年(1622)建立した三門は門の下を通ると貪、怒、痴(愚かさ)の煩惱を解脱させることができるそうだが、もう少し煩惱を持っていた方が人間臭くて良いと思ひ敢えてこの門をくぐらなかつた。

しかし、私たちが訪れた日は年末でもあり、御身祓式で高僧が来るべき新年を清らかな心で迎える法要を行っていた。

清らかな心とは別に絵島生島事件の発端は月光院代参の大奥女中の絵島の増上寺参詣の帰途、山村座に寄つたのが発端であり、赤穂義士の事件も勅使が増上寺来訪

に際し、吉良上野介が勅使饗応役の浅野内匠頭に畳替えの必要性を教えなかったことも刃傷沙汰になった一因となっている。ここは醜い歴史の舞台でもあったのである。



大 殿



御身祓式



プリンスホテル等に囲まれた境内



三 門

増上寺から今は薩摩屋敷跡と西郷吉之助の筆跡で標識だけある薩摩屋敷跡を通り、大石主税以下10名が切腹した松平隠岐守の中屋敷へ。残念ながら今はイタリア大使館となって中には入れない。切腹した場所は日本庭園の池になっているようだ。



薩摩屋敷跡標



イタリア大使館前、大石主税自刃の地の碑

最終目的地の赤穂47義士の墓地に到着する。

吉良上野介の首を洗ったという井戸があり、次いでお線香を購入する。先ず浅野内匠頭の夫人「あぐり」のお墓、浅野内匠頭、大石内蔵助の墓、そして47義士の墓があ

り、墓前にお線香を供える。実際のお墓は討ち入りを熱望したものの周囲の反対で、討ち入り前に切腹した萱野三平の供養墓があるので48の墓がある。

本懐成就後に瑤泉院等へ報告のため切腹しなかった寺坂吉右衛門のお墓も供養のため後年ここに建立されている。義士の戒名は皆「信士」であったのが印象的であった。



泉岳寺



大石内蔵助像



内匠頭夫人あぐりのお墓



大石内蔵助のお墓

そして築地に戻り「寿司ざんまい奥の院」で会食し、楽しい1日は終わった。

(3E 井田 記)